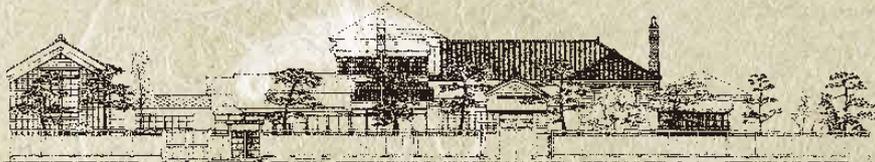


国指定重要文化財 旧相馬家住宅

北海道屈指の豪商 相馬哲平の館



THE OLD SOUMA HOUSE



イラスト/平井 聖 建築史家・東京工業大学名誉教授

館内のご案内

居室

風格のある玄関から家の中に上がり、名匠の建築技術を駆使して造られた大広間や洋間を見学することができます。

※100年以上前の豪商の暮らしがしのべれます。

旧相馬家住宅歴史回廊(土蔵ギャラリー)

現オーナーが収集した貴重な美術品や歴史的資料が、土蔵や和室に展示されています。この土蔵は、1897年(明治31)に建てられて、大火をくぐり抜けて現存するものです。



1750～60年代の「江差屏風」などが展示されている歴史回廊



神棚の見守る下、初代哲平が食事をとった囲炉裏の和室

カフェ元町(自由空間)

どなたでも自由にお休みいただけます。香り豊かなコーヒーで、眼下に広がる函館湾と市街の景観をお楽しみください。明治から続く老舗すき焼き専門店「阿さ利本店」の特製弁当を注文可(要予約)。



春には樹齢100年を超えるさつきが咲く庭を見渡せる風情ある廊下

音声ガイドシステム

片手で各部屋にセットしたシートにガイド機の先端を軽くタッチするだけで、日本語・英語・中国語・台湾語・韓国語の5カ国語で旧相馬家住宅の説明を聞くことができます。

初代・相馬哲平

文久元年(1861)、越後の国から28歳の青年は、大志を抱いて開港間もない箱館(現在の函館)に渡る。箱館戦争の混乱の中、米の騰貴を見越し、一世一代の大勝負に出て巨利を得た後、ニシン漁の投資と海陸産物の商いをし、一代で北海道屈指の豪商に上り詰める。晩年、「郷土報恩」の志を持って、函館区公会堂を始め数々の公共事業に私財を投げ打ち、函館発展の基礎を築いた。旧相馬家住宅は、明治41年(1908)に建てられた和洋折衷の歴史的建造物で、2018年12月に国の重要文化財に指定され、今もなお函館湾を一望できる地に威風堂々たる佇まいを残している。

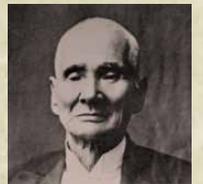


初代・相馬哲平

1833-1921

年表

1833年	0歳	現新潟県で誕生
1861年	28歳	函館に渡り、商人の家に住み込みで働く
1864年	30歳	貯蓄をもとに、米穀商を開業
1872年	39歳	金融業に転身し、後に北海道一の豪商になる
1908年	75歳	大火で焼失した公会堂の建築費の大半を寄付
1912年	79歳	地元銀行の頭取に就任
1918年	85歳	貴族院議員に当選
1921年	88歳	永眠(89歳)、高龍寺に埋葬



INFORMATION

入館料 ※団体料金あり(8名以上)

一般 1000円 大学生 700円

高校生 500円 中学生以下 300円

75歳以上 800円 身体障害者 700円

開館時間

9:30～16:30 最終入館16:00

※4月(大型連休中を除く)と11月は、

9:30～16:00 最終入館15:30

閉館日

毎週水・木曜日

12月1日～3月31日

※若干の変更をする場合がありますので、詳細はお問い合わせください。

〒040-0054 北海道函館市元町33-2

TEL.0138-26-1560 FAX.0138-26-1646

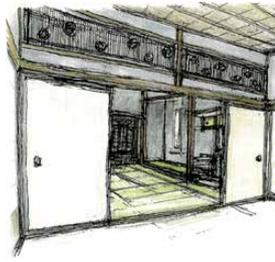
soumatei@mse.ncv.ne.jp

<https://www.kyusoumake.com>

●入館者の皆様は市街を一望できるカフェでコーヒーをお楽しみいただけます。

●全国でも旧相馬家住宅でしか見られない約100年前の大火(大正10年)の焼け跡が残る屋根裏をご覧になれます。

国指定重要文化財
旧相馬家住宅
 北海道屈指の豪商 相馬哲平の館
建築探訪



引き分けの板扉
 板扉は框(枠)のタモと彫刻されたケヤキを寄木の技法で組上げたもの。引き手には透明緑色のウランガラスを用いています。



主座敷(床の間)
 畳15枚分の広い和室は、一家の行事や冠婚葬祭で用いられました。座敷飾りの「床の間」には、檜、黒檀、紫檀、樺、杉などの高級木材が使用されています。



主座敷(付書院)
 大広間から縁側には、座敷飾りの「付書院」が張り出しています。上部の「欄間」は黒檀に鳳凰の透かし彫りが見られます。障子の棧の繊細な図柄も見ものです。

洋室外観
 客人をもてなすために、洋間が併設されました。窓の額縁、角の柱、軒下の支えなどに施された精巧な彫刻は見事。優れたデザイン性と職人の高い技術が伺えます。



縁側と庭
 家の外周にはガラス戸の入った縁側がめぐらされていて、部屋から和風庭園が望め、遠くは大沼・駒ヶ岳まで見通せます。昔の窓ガラスにはわずかな凸凹があり、景色に変化がついて風情があります。

洋室内部
 室内外のデザインは、相馬哲平の多額の寄付により完成した旧函館区公会堂と共通した華やかな雰囲気をもっています。天井や壁の飾りも精巧にできています。

歴史回廊[土蔵ギャラリー]の貴重な所蔵品の数々



江差屏風／江戸時代中期の松前藩で活躍した絵師・小玉貞良が、約260年前に蝦夷地(北海道)で最も栄えていた江差の町を描写。※現在は長期保存のために北海道に譲渡され、写真複製を展示

コロボックルの図／北海道の名付け親で探検家の松浦武四郎が、アイヌの伝説をもとに落の葉の下にうづくまるコロボックルを描いたもの。



四季花鳥絵巻／松前藩家老で画家の蠣崎波響作。日本の豊かな自然を描写した長さ4mの絵巻。



ゑんす絵(アイヌ絵巻)／本格的アイヌ絵を最初に描いた絵師・小玉貞良作。先住民アイヌの人々の生活や儀式の様子を描いた最も古いといわれるアイヌ絵。